

## 死生観国際比較のための尺度作成について

— 日本における祖先対話, 輪廻, 日常的シャーマニズム —

Constructing After-Life Scales for international comparison: Dialogue with  
Ancestors, Reincarnation, Daily Shamanism in Japan.

中村俊哉

Shunya NAKAMURA

福岡教育大学

倉元直樹

Naoki KURAMOTO T.

東北大学

中島義実

Yoshimi NAKASHIMA

福岡教育大学

(平成15年9月10日受理)

### 要約

In East and South Asia, there are some cultural and religious traditions concerning reincarnation and ancestor's spirits. In Japan there is the Obon festival in which Japanese invite their ancestor's spirits and greet them.

However, there seems to have been a cultural and psychological change recently in these countries.

We attempted to make scales based on Dialogue with Ancestors, Reincarnation, Daily shamanism etc. to find out the relations between some scales concerning ones outlook on death and psychological state.

Key words Obon, Dialogue with Ancestors, Reincarnation, Shamanism

### はじめに

東アジアにおいて留学生等の交流が進むにつれ, 数々の共通性と違いが分かるようになった。日本におけるお盆が中国では鬼節であることは, すでに中村(印刷中)が述べているとおりであるが, これらの現象は, 東アジア諸国におけるこのあり方の連続性を想起させる。アジア各地に, 神や霊との交流を行うシャーマンが存在していることについては数々の研究が見られるが, 筆者らの調査でも, インド・コルカタ地区のロージャ, インドネシア・バリ島地区のバリヤン, 沖縄のユタなどが日常生活の中に一定の役割を担っていることを確認した。一方で, 地域によっては, この種のファンタジーを抑制するところも多く, また急速に無宗教化しているところもある。たとえば革命後の中国では, 無宗教化が進んできたと思われる。日本においても, 都市化により, 地域によっては大きな変化が起こっている可能性がある。

筆者らは, 一般の人が日常的に, 祖先の霊と対話している現象に注目している。中村(印刷中)が

述べたように, たとえば, 日本でも, 残された妻が仏壇の死者の位牌に向かって毎日話しかけている情景が見られる。そして, そのことによって死者との離別を受容することが可能になり, 死別うつ状態に陥ることを防止する機能が働いているのではないかという推論ができる。

中村(印刷中)は, 南アジアにおけるお盆の現象, 祖先との対話の現象, 輪廻のファンタジーと, シャーマニズム(ヒーラー)について, インタビュー結果を報告した。アジア各地に類似の現象が存在している。たとえば, お盆の行事は, 日本においても日常的にみられるものである。また, 先述した位牌に向かって話しかける現象, 魂の輪廻という素朴なファンタジーも存在する。しかし, これらがどの程度の人にとどの程度のリアリティを持って信じられているかは必ずしもはっきりしていない。これらの現象は, 死に向かう心構えとも関連する。また, 来世をどのようにとらえるかは, 現在の生き方にも関連する。中村(2002)が述べたように, 死生観の歴史, 分布を知ること, そして心理学的な死生観のしくみを知ること

注) 本研究は, 日本学術振興会科学研究費(課題番号 13571007)の補助を受けた。

は、自らの心構えを作るために重要と思われる。

これらのテーマをあつかうときに、歴史的な発生や伝播を研究するタイプのものがある。これらの視点から見ると、古来の死生観に、新しいものが入り、外側に新しいものが付け加わってくる。死生観の混合を図式化すると、タマネギのような構図が考えられる。すなわち、芯の中の方には、古いものが残っていると考えることができよう。それら古いものがしばしば復活してくると考えることにより、異なるものの同士のシンクレティズムも広汎に説明できる。

一方、死生観は認知的レベルのものであり、認知的に一変すると考える立場もあろう。その場合には、新しいものを取り入れても葛藤を引き起こさず、古いものは残ることはない。しかし、これは現実世界を必ずしも十分に表していない。

さらに、深層心理学的な視点の研究も見られる。これらの場合は、人間の心の中に、ある程度普遍的なものが存在し、それらを無意識の中に抑えつけたり、無意識の中からそれらを顕在化させたりするということになる。そして、それぞれのところが一定の均衡を保っていると思われる。死生観の伝播とは、もともとところの中にあるものが活性化される現象と見ることができよう。

これら死生観の実際を明らかにするには、それぞれの心理的状态を表す尺度を作成することが必要となる。これまでの宗教心理学の研究は、杉山(2001)にくわしいが、宗教という用語を用いた質問項目には、宗教への否定的な反応が多く出る傾向がある(金見, 1997, 中村ほか, 2001)。死生観は、宗教とまではいえないレベルの心理状態であり、文化心理学的に検討すべき問題である。宗教を信じていない人の割合が多い日本でも、死生観は全ての人が暗黙裏に持っているものである。これまで、日本におけるこれらの尺度は、因子分析をおこなうと、異質なものが混合してくる傾向が見られた。つまり、日本的シンクレティズムがみられ、それぞれの要素が区別されにくかった(平井ほか, 2000, 中村ほか, 2001)。つまり、輪廻、天国、霊などへの素朴な信仰が、区別されない傾向が見られた。しかし、これらを区別し、明確に尺度化することは、必要である。

これらのいわば民間信念(Folk Belief)の尺度を適切に作成することができれば、それらをアジア各国、ひいては、欧米などと比較することが可能となる。また、死生観、来世観、神霊観といった民間信念と、うつ状態や幸福感といった心理

的状态との関連性については、これらの尺度を作成した後の課題と言える。これらの相互関連が、文化によって一定である可能性と、文化によって違う動き方をしている可能性とがある。

本研究では、これらの死生観の心理学的な尺度を作成するために行ったパイロットスタディについて報告を行う。

## 方法

本研究では2回の調査を行った。それぞれの尺度項目を作成して第1回目調査の結果から修正を行い、第2回目の調査を行った。第1回目の調査は2003年1月に大学生120名を対象に、福岡において集団法にて実施した。また、第2回目調査は2003年8月に、成人135人を対象に福岡において集団法にて実施した。これらの尺度の作成および修正のプロセスにおいては、第1回目調査の自由記述を重視し、そこから示唆されたものを積極的に取り入れた。また、インド、インドネシアでのインタビューの成果を取り入れることを重視し、特定文化に固有のものもある程度測定可能となるように考慮した。

本研究では、それらのうち、次の尺度を作成過程について報告する。

- 1 魂の居場所(尺度ラベル:Place, 13項目)
- 2 魂の自律観と神の決定観(尺度ラベル:DTRM, 8項目)
- 3 お盆(尺度ラベル:OBS, 4項目)
- 4 霊魂尺度(尺度ラベル:DSS, 12項目)
- 5 祖先対話尺度(尺度ラベル:ADS, 4項目)
- 6 祖先、神への働きかけ(尺度ラベル:GAA, 7項目)
- 7 輪廻尺度(尺度ラベル:RICN, 11項目)
- 8 因果尺度(尺度ラベル:CAUS, 2項目)
- 9 シャーマニズム尺度(尺度ラベル:SHS, 12項目)
- 10 神尺度(尺度ラベル:GS, 14項目)
- 11 終末論尺度(尺度ラベル:ES, 9項目)
- 12 シンクレティズム態度尺度(尺度ラベル:SCT, 5項目)
- 13 西沢のスピリチュアリティ尺度(尺度ラベル:SPS, 5項目)
- 14 Wongの死への態度尺度短縮版(尺度ラベル:DAPR, 10項目)

## 結果

以下に、6つの章に分けて、それぞれの尺度構成の経過と結果について述べ、さらにそれらの妥当性について述べる。

### 1 お盆、魂

#### 1 魂の居場所 Place : 13項目

「イメージで結構ですが、魂があるとして、死後に魂がいるのはどこだと思いますか」という問いにより、死後の魂の所在について聞いたものである。魂の居場所と想定されるものは、必ずしも1カ所に特定できるものではないようである。第1回目調査においては、特に指定していなかったにもかかわらず複数に回答する人が多かった。そのため、第2回目調査では「いくつでも○をつけてください」と複数選択を明記することとした。「山の奥深く」は、日本古来の「山上他界観」を参考にした。「家のそば、敷地」を入れたのは、インドネシアのバリ島でのインタビュー結果を考慮したことによる。家の敷地内にサンガクムランという祖先の霊をまつ場所が存在するためである。「どこか分からないところ」は、インドネシアジャワ島のイスラム教徒のインタビューに出てきたもので、最後の審判を待つ場所を、「どこか分からないところ」としたことを考慮した。「海のかなた」は、沖縄のニライカナイを意

識して作成した。また、第2回目調査では第1回目調査の自由記述にみられた項目「大切な人のそば」「別世界」と、インド取材で出てきた項目「月の世界」を加えた。これらの回答に尺度としてどのようなまとまりがあるかという点については、今後の検討課題である。

表1によると、4割ほどの人が、魂は天に行くと考えており、2割ほどの人が、家の中やお墓の中と答えている。また、「地の下の方」という回答は皆無であった。現代日本においては、地獄の発想が希薄であることが明らかになったと言えるかもしれない。ただし、「洞窟の中」という項目を入れた場合には、地獄のイメージがそこに現れる可能性もある。沖縄の「浦添よどれ」のような歴史的背景があるからである。また、「宇宙の遠いところ」という回答が、第1回目調査では少なかったのに第2回目調査で急激に増加した背景は、一つには複数選択にしたためと思われるが、もう一つは第2回目調査が成人のデータであり、学生よりも仏教的、法華経的な発想が含まれているためという可能性がある。

なお、たとえば、「天の上の方」と「大切な人のそば」の複数が選択された場合、魂（個人）が双方を行ったり来たりすると考えられたのか、魂（個人）によって居場所が違うと考えられたのか等の具体的な解釈については、この表から読み取ることにはできない。輪廻についても、この表には現れていない。

表1 魂の居場所

魂の居場所 尺度ラベル:Place		第1回目調査		第2回目調査	
		n=120	%	n=134	%
天の上の方	Place1	47	35.1	52	38.5
山の奥深く	Place2	5	3.7	7	5.2
海のかなた	Place3	1	0.7	4	3
家の中	Place4	13	9.7	23	17
家のそば、敷地	Place5	7	5.2	10	7.4
お墓	Place6	17	12.7	21	15.6
どこか分からないところ	Place7	25	18.7	31	23
地の下の方	Place8	0	0	0	0
宇宙の遠いところ	Place9	1	0.7	21	15.6
大切な人のそば	Place10	想定外	—	71	52.6
別世界	Place11	想定外	—	49	36.3
月の世界	Place12	想定外	—	0	0
その他	Place13	15	11.2	17	12.6

## 2 魂の自律観と神の決定観 DTRM：8項目

「死後の処遇を誰が決めるのか」についての8項目の質問について、「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5点とした。

これらの質問項目では、一神教的な発想と、その対極にあるような魂の自由な動き、さらには無神論的な発想の3種類を示している。とくに「魂の自律観 (DTRM1)」の「死んだあとどうなるかは、魂自身が決めることである」は、インドネシア・バリ島におけるインタビューから重要

な項目と判断して作成した。また、「魂の自然への還元」という発想は、日本人向けに作成した。インド人などは、むしろ魂と肉体を分ける傾向にあり、「肉体は自然に還元されるが、魂は存続する」といった形で明確に区別する傾向がある。それと比較して、日本人の場合、「魂まで自然に還元される」と考える傾向が強いのではないかと考えた。第1回目調査の分析から、この「魂の自律観 (DTRM1)」の項目が、特有な動きをしている可能性があるかと判断し、類似の項目 (DTRM5, DTRM6) を2つ増やすこととした。DTRM5については、「魂の格」ということばをもちだしたことで、他の2つとはやや違った

魂の自律観・神の決定観尺度	尺度ラベル:DTRM	第2回目調査		
		神の決定観	魂の自律	還元消滅
死んだ後どうなるかは、魂自身が決めることである	魂の自律観1 DTRM1	-0.01	0.87	-0.04
死後に天に行くか、地の下に行くかは、魂自身が決めることである	魂の自律観2 DTRM5	-0.02	0.87	-0.01
死後にどこに行くかは、魂の格、レベルでできる	魂の自律観3 DTRM6	0.37	0.63	-0.27
死んだ後どうなるかは、神が決めることである	神の決定観1 DTRM2	0.85	-0.1	-0.06
死後に天国に行くか、地獄に行くかは、神が審判して決めると思う	神の決定観2 DTRM7	0.91	-0.09	-0.09
残された家族が、貧しい人に物をあげたり、お坊さんに食事を出したりすることが、死者の魂の行き先により影響を与える	影響観 DTRM8	0.6	0.36	-0.1
死んだ後、体とともに魂は消滅すると思う	魂の消滅観 DTRM3	-0.22	-0.17	0.79
死んだら、体とともに魂も大自然の元素に戻ると思う	魂の還元観 DTRM4	0.14	-0.02	0.87

表2 「魂の自律観と神の決定観」の因子構造

魂の自律観・神の決定観尺度	尺度ラベル:DTRM	第1回目調査		第2回目調査		
		平均	SD	平均	SD	尺度値との相関
		n=120		n=131 α=0.74		
死んだ後どうなるかは、魂自身が決めることである	魂の自律観1 DTRM1	2.5	1.1	2.6	1.2	0.62
死後に天に行くか、地の下に行くかは、魂自身が決めることである	魂の自律観2 DTRM5	—	—	2.3	1	0.6
死後にどこに行くかは、魂の格、レベルでできる	魂の自律観3 DTRM6	—	—	2.3	1.2	0.48
—	魂の自律 尺度値	—	—	7.2	2.8	—
		—		n=132 α=0.74		
死んだ後どうなるかは、神が決めることである	神の決定観1 DTRM2	2.4	1.2	2.5	1.3	0.63
死後に天国に行くか、地獄に行くかは、神が審判して決めると思う	神の決定観2 DTRM7	—	—	2.3	1.4	0.69
残された家族が、貧しい人に物をあげたり、お坊さんに食事を出したりすることが、死者の魂の行き先により影響を与える	影響観 DTRM8	2.5	1.2	2.2	1.1	0.39
—	神の決定観 尺度値	—	—	6.9	3	—
		—		n=132 α=0.59		
死んだ後、体とともに魂は消滅すると思う	魂の消滅観 DTRM3	2.7	1.2	2.4	1.3	0.42
死んだら、体とともに魂も大自然の元素に戻ると思う	魂の還元観 DTRM4	2.9	1.1	3	1.3	0.42
—	還元消滅 尺度値	—	—	5.4	2.2	—

表3 魂の自律観・神の決定観 項目分析と下位尺度値

ニュアンスを含んでしまった可能性がある。

表2は、これらの第2回目調査データによる因子分析結果である。なお、本研究はパイロットスタディの位置づけであるため、相関行列の共通性による修正は行っていない。したがって、実質的には主成分分析と同じと言える。相関行列の固有値分解の結果、第3因子まで意味があると判断し、バリマックス回転を行った。魂自身がどうなるかを定める「魂の自律観」が3項目、神が決めることであるという「神の決定観」が3項目(この中に、残されたものの影響観が含まれた)、そして魂が消滅するか、自然に還元されるという「消滅還元観」が2項目である。尺度得点の分布と項目分析結果は、表3の通りである。それぞれの下位尺度は、項目数が少ないにもかかわらず、比較的高い信頼性係数(クロンバックの $\alpha$ )が示されている。

表4には、それぞれの下位尺度の値を示した。平均点としては、「消滅還元観」の値が比較的高く、次に「魂の自律観」が高くなった。

### 3 お盆 OBS : 4項目

お盆についての質問は4項目である。うち3項目は尺度として表4に示した。なお、OBS4は、祖先が戻る時期を聞いたものである。OBS4については、それぞれの時期についての回答分布を表5に示す。

お盆の行事を行っている人自体は多いが、「食事をするとときに死者にも出す」人は比較的少数であった。また、「海で泳いではいけない」という観念は、当初、九州地区にも広く分布していると予想したが、実際には比較的低い値となった。現在、沖縄地区で、文化と死生観に関する調査を実施中であるが、お盆に関する3項目は全て沖縄の方が高いことが予測される。なお、OBS3は、全体との相関は低いので、「海で泳いではいけない」という項目は、お盆行事の実施とは無関係で

あり、むしろ霊に関する項目に近いのではないかとと思われる。

表5は、「あなたの考えでは死者、祖先が戻るのは、いつですか。あてはまるところに、いくつでも○をつけてください(OBS4)」への回答結果である。

旧暦のお盆と旧正月は、日本では地方に残っているところがあるが、明治以降に徐々に新暦に移っていったといえよう。新暦のお盆では、一般に8月15日、東京では7月15日であるが、ここでは触れていない。清明節は、沖縄の習慣を考慮してここに入れた。「イースター」は、東南アジアの華僑へのインタビューから発想した。父親の代に道教からキリスト教に改宗した人がおり、イースターの日に墓参りに行くようになった、というエピソードに基づくものである。

表5に見られるように、新暦のお盆が主流であり、旧暦のお盆が3割ほどである。また、正月、春分、秋分がそれぞれ1割ほどであった。沖縄では、旧暦のお盆の値が高くなると予想される。

### 4 靈魂尺度 DSS : 12項目

霊、魂に関する12項目の構造を調べた。「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5点とした。

相関行列の固有値から、1因子で分析することが適当であると考えた。

「お化けが怖い」という項目は、インドネシアジャワ島のイスラム教徒が、霊を否定しながらも幽霊が怖いという話をしたこと由来する。DSS6には、当初、「こっくりさん」の現象を入れていたが、より普遍的な言い回しに修正した。インドのプランシェ(planchete)も全く同じやり方である。世界的に、こっくりさんのように、人が紙の上にペンをもち、そのペンが自然に動いて霊の意思を表すといった現象が存在するのであ

お盆尺度	第1回目調査			第2回目調査			
	尺度ラベル:OBS			n=135 $\alpha=0.54$			
	平均	SD	全体との相関	平均	SD	全体との相関	
私の家では、夏のある期間、死者の魂を家に迎え入れる儀式を行う	OBS1	3.7	1.4	0.22	3.6	1.4	0.48
親戚で集まって食事をすると、死んだ人がそこに存在するかのよう、死者にも食事を出す	OBS2	2.6	1.5	0.22	2.5	1.5	0.33
お盆の間、海で泳いではいけないと思う	OBS3	-	-	-	2.6	1.5	0.26
	尺度値	-	-	-	8.8	3.3	

表4 お盆尺度

魂の戻る時期 尺度ラベル:Retur	第2回目調査	
	n=135	%
新盆	Retur1	75 56
旧盆	Retur2	43 32
清明節	Retur3	0 0
春分	Retur4	12 9
新正月	Retur5	11 8
旧正月	Retur6	1 1
秋分	Retur7	12 9
イースター	Retur8	1 1
その他	Retur9	7 5
いつもいる	Retur10	40 30
戻らない	Retur11	15 11

表5 魂の戻る時期

ろうか。

祖先の霊や、水子の霊などは、日本でよく語られる内容であるので、項目として入れることとした。

## II 祖先対話、祖先、神などとのやりとり

## 5 祖先対話尺度 ADS:4項目

日本で日常的に見られる、祖先、死者への対話、報告についての質問である。「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5点とした。

第1回目調査の段階で、お供え、報告などについて質問にしていたが、これらは神、祖先、仏などの多重選択方式に変更することにしたので、ADSからは除き、「祖先、神への働きかけ(GAA)」として新たに独立な項目として作成することとした。

## 6 祖先、神等への働きかけ GAA:7項目

第2回目調査において新たに作成した質問票である。

お供えは、死者、祖先にするという人が90%に近いほど圧倒的に多く、神、土地の神や霊、仏・菩薩とともに20%以下であった。

死者の魂の平安を祈る相手としては、魂に直接平安になるように祈ることが圧倒的であり、

霊魂尺度	尺度ラベル:DSS	第1回目調査		第2回目調査		
		n=119 $\alpha=0.67$		n=132 $\alpha=0.92$		
		平均	SD	平均	SD	尺度値との相関
交通事故で死んだ人が出たら、道に花束を手向けて霊を慰めるとよい	DSS1	3.7	1.1	3.6	1.1	0.44
霊的な場所に行ったあと、人に霊が付いてしまうことがある	DSS2			3.1	1.3	0.79
死んだ後、魂は消滅せずに、存続すると思う	DSS3	3	1.2	3.3	1.2	0.57
お墓の近くを夜一人で歩くと、霊が出そうで怖い	DSS4	4.1	1.2	3.6	1.3	0.8
世の中には霊の「あたり」があると思う	DSS5			3.3	1.3	0.81
霊が勝手に人の手を動かして、「はい」、「いいえ」などの文字を指すことがある	DSS6	修正2.3	1.3	2.3	1.2	0.62
お化けや幽霊が怖い	DSS7	3.7	1.2	3.4	1.4	0.71
天や浄土に行けずに地上にさまよう霊が多数あると思う	DSS8	3.5	1.2	3.3	1.3	0.79
幽霊が出そうで、夜、一人で暗いトイレに行くのが怖い	DSS9	3.1	1.5	2.5	1.4	0.66
祖先の霊が、あなたに呼びかけるために、ドアの音を鳴らしたりすることがある	DSS10	—	—	1.8	1.1	0.51
霊の怨念を鎮めることで、いろいろな問題が解決することがある	DSS11	—	—	2.7	1.3	0.75
この世に生まれなかった水子の霊は、供養しなければいけない	DSS12	—	—	3.8	1.2	0.56
尺度値		—	—	36.7	11.1	—

表6 霊魂尺度

祖先対話尺度	尺度ラベル: ADS	第1回目調査				第2回目調査			
		n=120		α=0.85		n=133		α=0.86	
		平均	SD	尺度値との相関		平均	SD	尺度値との相関	
死者の魂に対して、よく何かを問いかける	ADS1	修正 3.3	1.2	0.56		3.3	1.3	0.77	
死者の魂に対して実際声を出して話しかけ、近況報告や健康の感謝をする	ADS2	3	1.4	0.63		2.8	1.5	0.66	
死者は、どこかでこの世の子孫たちを見守っているはずだ	ADS3	4.1	1	0.59		4	1.1	0.75	
死者は、子孫が危険な目にあうとき、助けてくれることがある	ADS4	3.9	1.2	0.62		3.6	1.2	0.56	
死者のために、家の中のある場所(仏壇など)に食べ物や飲み物を供える		4.2	1.2	0.51		-	-	-	
お墓(あるいは納骨堂)で死者や祖先にお花や線香を供える		4.6	0.8	0.53		-	-	-	
仏壇(あるいは死者の思い出の品を置いた場所)の前で、死者や祖先に対して(大学に入学したこと、子供が生まれたことなど)報告する		4.1	1.2	0.62		-	-	-	
心の中で、死者や祖先(あるいはイメージ)に対して(大学に入学したことなど)報告する		3.8	1.3	0.55		-	-	-	
死者(あるいはイメージ)に対して自分の悩みを打ち明け、何かのメッセージをもらう		1.9	1.1	0.44		-	-	-	
仏壇(あるいは死者の思い出の品をおいた場所)で、死者にお花を供える		4.5	0.9	0.53		-	-	-	
	尺度値	37.4	7.5	-		13.6	4.3	-	

表7 祖先対話尺度

80%を超えている。視点を変えれば、直接魂に働きかけるのは、シャーマニズムの日常化とも、日常的なシャーマニズムとも言えるであろう。これらは、一神教の社会では強く抑制されていると思われる。

元気でいることの感謝は、祖先、死者が圧倒的に多い。唯一神は4%にすぎない。ここで興味深いのは、生きている親に対して、心の中で感謝するという人が自由記述で14%にも上ることである。このことは、心の中で対話する相手が死者に限らないということを示す。多少の水準の違いは考えられるが、親に対して空想上の対話をしている延長で、その親が亡くなった後も対話を続けているといった解釈になるとと思われる。

一方、苦しいときに助けを求めるときの相手は、唯一神が10%になるし、(唯一神に限らず)神も20%を超える。一神教文化ではない日本人の心の中にも、何らかの唯一神の存在が想定されているとも考えられる。このことは、表17で再び触れることとする。また、苦しいときに心の中で助けを求める場合も、相手として生きている親や友人を記載する人が多く、5%を超える。

GAAのうち、祖先への働きかけを選択した数を合計して、祖先への働きかけ尺度(AA)を7項目で作成した。これらを、ありを1点、なしを0点として、尺度の構成を見たのが表10である。ある程度の信頼性が示された。この尺度の妥当性を見るために、祖先対話尺度との相関を見たところ、0.48\*\*という高い値を示した。

祖先、神等への働きかけ 尺度ラベル: GAA1-4	第2回目調査 n=134	
	人数	%
お供えの食べ物をおくのは、	GAA1	
神に	18	13
死者、祖先に	115	87
土地の神や霊に	21	16
仏・菩薩に	22	16
その他	1	1
お供えをしない	7	5
死者の魂の平安を祈るのは、	GAA2	
神に頼む	16	12
死者の魂に直接祈る	112	84
仏・菩薩に	25	19
その他	4	3
祈らない	4	3
元気でいることを感謝するのは、	GAA3	
神	20	15
唯一神	5	4
祖先、死者	94	70
土地の神や霊	12	9
仏・菩薩	24	18
その他「親」	19	14
しない	12	9
苦しいときに助けを求めるときの相手は、	GAA4	
神	30	22
唯一神	13	10
祖先、死者	71	53
土地の神や霊	9	7
仏・菩薩	24	18
その他「親・友」	7	5
求めない	26	19

表8 祖先、神等への働きかけ1-4

祖先、神等への働きかけ 尺度ラベル:GAA5-7	第2回目調査 n=134	
	人数	%
家のなかに祈りの場があるのは、	GAA5	
神	27	20
唯一神	1	1
祖先、死者	100	75
土地の神や霊	11	8
仏・菩薩に	38	28
その他	1	1
ない	14	10
死後はどこに行きたいですか	GAA6	
神の許へ行きたい	16	12
神と合体したい	0	0
解脱したい	5	4
次の人生を送りたい	48	36
仏の許へ	10	7
先に死んだ家族や知人のいるところへ	87	65
花をさげるのは、	GAA7	
神に	11	8
祖先、死者	117	88
土地の神や霊	14	10
仏・菩薩に	21	16
その他	0	
花をさげない	12	9

表9 祖先、神等への働きかけ 5-7

祖先への働きかけ尺度 尺度ラベル:AA	第2回目調査 n=131 α=0.71		
	平均	SD	尺度値との相関
祖先にお供え	AA1	0.88 0.35	0.56
直接祖先へ祈る	AA2	0.85 0.36	0.24
祖先に健康を感謝	AA3	0.73 0.45	0.63
祖先に苦しいとき助けを求める	AA4	0.54 0.5	0.49
祖先に祈る場あり	AA5	0.78 0.47	0.52
祖先、先に行った家族のもとに行きたい	AA6	0.66 0.48	0.43
祖先に花を供える	AA7	0.88 0.33	0.5
	尺度値	5.3 1.9	-

表10 祖先への働きかけ尺度 (AA)

神への働きかけ尺度 尺度ラベル:GA	第2回目調査 n=133 α=0.83		
	平均	SD	尺度値との相関
神にお供え	GA1	0.11 0.31	0.57
土地神にお供え	GA2	0.16 0.37	0.45
神に死者の平安を祈る	GA3	0.12 0.32	0.44
土地の神に死者の平安を祈る	GA4	0.21 0.41	0.06
神に健康を感謝	GA5	0.14 0.35	0.67
土地神に健康感謝	GA6	0.09 0.29	0.56
神に苦しいとき助けを求める	GA7	0.22 0.41	0.53
土地神に苦しいとき助けを求める	GA8	0.06 0.24	0.57
神にいのる場あり	GA9	0.2 0.4	0.47
土地神に祈る場あり	GA10	0.08 0.28	0.6
神の許に行きたい	GA11	0.12 0.33	0.43
神に花を供える	GA12	0.08 0.26	0.52
土地の神に花を供える	GA13	0.11 0.31	0.55
	尺度値	1.68 2.48	-

表11 神への働きかけ尺度 (GA)

GAAのうち、神への働きかけを選択した数を合計して、神への働きかけ尺度 (GA) を13項目で作成した。これらを、ありを1点、なしを0点として、尺度の構成を見たのが表10である。ある程度高い信頼性が示されたが、「死者の平安を土地の神、霊に祈る」は、全体との相関が低かった。この尺度の妥当性を見るために、神尺度(表17)との相関を見たところ、0.54\*\*という高い値

を示した。

### III 輪廻

#### 7 輪廻尺度 RICN : 11項目

輪廻に関しては、日本でも普遍的に信じられているのだろうか。インド的なものが伝播したと



考えるべきなのであろうか。その点を明らかにするために、輪廻の尺度を作った。そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5点とした。

結果的に信頼性係数の高い、一貫性を持った尺度となった。天国から人間に、地獄から天国に、と行った流れも、重要な輪廻の要素とした。これは、インドネシアジャワ島のイスラム教徒のインタビュー結果をふまえたものである。一般にイスラム教では天国、地獄に分かれたらそのまま

のはずであるが、ジャワ島のイスラム教徒の間では、地獄から天国への移行があると考えられているのである。これは、輪廻観のシンクレティズムであらうか。

第1回目調査からの追加項目は、03年1月のインド調査を参考にした。つまり、「良い行いをすると早く人間に生まれる」というインタビュー回答が見られたことによる。ベジタリアンであるかどうかを調べる質問も入れていたが、これは尺度外のものとした。

輪廻尺度	尺度ラベル:RICN	第1回目調査			第2回目調査		
		n=118 α=0.88			n=129 α=0.927		
		平均	SD	尺度値との相関	平均	SD	尺度値との相関
今の人生の前に、別の人間であったような気がする	RICN1	2.4	1.4	0.61	2.4	2.4	0.66
死者の魂は人間に再生することがある	RICN2	3	1.3	0.76	2.8	1.4	0.77
死後の魂は、しばらくはどこかにいるが、そのうち地上に戻って何らかの生命に再生する	RICN3	2.9	1.3	0.73	2.9	1.4	0.85
ある特別な人々は、何度も生まれ変わって、世の中のために尽くすことがある	RICN4	2.4	1.3	0.66	2.5	1.3	0.75
天国に行ったとしても、再び人間に戻ることもある	RICN5	2.8	1.4	0.78	2.7	1.3	0.82
地獄に行ったとしても、修行をすれば天国に移ることができる	RICN6	2.6	1.3	0.63	2.4	1.2	0.72
時々、かつて体験したような気がするものは、前世の記憶かも知れない	RICN7	2.7	1.4	0.68	2.7	1.4	0.64
次に生まれ変わる時、人間以外の動物になることもありうる	RICN8	3.6	1.2	0.56	3	1.3	0.65
前の人生で良いことをすると、早く人間に生まれ変わる	RICN9	想定外	-	-	2.3	1.1	0.61
死後に人間に生まれ変わることは、楽しみなことだ	RICN10	想定外	-	-	2.6	1.3	0.57
動物は、かつて人だったかも知れない魂を持つ	RICN11	2	1	0.19	2.6	1.3	0.74
	尺度値	-	-	-	28.8	11.02	-

表12 輪廻尺度

8 因果尺度 CAUS：2項目

いわゆる、業、因果的な考え方を聞く項目を作った。「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5点とした。

インドにおいては、とくにこの考え方が多くの人に強調されていた。日本においても、この考え方は仏教の中に含まれていると考えられる。平均を見ると、日本人においては、輪廻よりも支持されていないようである。

因果尺度	尺度ラベル:CAUS	第2回目調査 n=135 α=0.82		
		平均	SD	尺度値との相関
この世でよい人生を生きないと、次に生まれ変わる時あまりよくない人生になる	CAUS	2.6	1.4	0.7
この世で良い人生を生きれば、死後の世界は素晴らしいものになる	CAUS	2.7	1.3	0.7
	尺度値	5.3	2.4	-

表13 因果尺度

IV シャーマニズム・ヒーラーおよび神霊観

9 シャーマニズム尺度 SHS：12項目

シャーマニズムに関する項目をあつめ、それを因子分析した。「あてはまらない」～「あてはまる」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「あてはまらない」が1点～「あてはまる」が5点とした。

相関行列を固有値分解したところ、3因子構造

が適切と考えられたため、3因子構造を仮定してバリマックス回転を行った。これらにより、3つの下位尺度を作成した。

「シャーマニズム1」尺度は、第1回目調査ではほとんど入れていなかった項目群である。これは、日常的な神霊との相互作用であり、特に、心身に影響が現れるという側面のシャーマニズムで、バリ島でのインタビューや文献研究により、項目としての必要性を認識したものである。これを、「変容シャーマニズム」と呼ぶこととした。

変容シャーマニズム 尺度ラベル:SHS	第1回目調査			第2回目調査		
	n=123			n=134 α=0.9		
	平均	SD	尺度値との相関	平均	SD	尺度値との相関
何かの霊が影響して病気になるという、それに気づく霊感の強い人が存在すると思う	SHS2	-	-	3.3	1.5	0.75
神や霊の影響で、心身に聖なる変化が起こることがあると思う	SHS5	-	-	2.6	1.5	0.77
霊が人の体に入るとき、意識状態が変わることがあると思う	SHS6	-	-	2.6	1.4	0.78
神や死者の霊を呼び出して、その魂の意志を読みとることができる人が存在すると思う	SHS7	-	-	3	1.4	0.84
夢の中に神や死者が出てきて、何かのメッセージを言うと思うと、それを尊重する	SHS8	3.5	1.1	3	1.3	0.61
尺度値	-	-	-	14.5	5.9	-

表14 変容シャーマニズム尺度

「シャーマニズム2」尺度は、シャーマンについての考え方である。死者や祖先の魂と交信するシャーマンを信じるか、そのようなシャーマンのところに訪れるかという項目群である。おそらく、バリヤンというシャーマンが日常の中にとけ

込んでいるバリ島や、ユタというシャーマンが存在する沖縄では、本調査よりも高い平均値が観察されるであろう。これを、「委任シャーマニズム」と命名する。

委任シャーマニズム 尺度ラベル:SHS	第1回目調査			第2回目調査		
	n=134 α=0.94			n=135 α=0.86		
	平均	SD	尺度値との相関	平均	SD	尺度値との相関
不思議なことがあれば、ユタやイタコなど呪術師に相談し、見てもらう	SHS3	-	-	1.6	1	0.69
ユタやイタコなどの呪術師の所に行ったことがある	SHS4	1.4	0.8	1.3	0.9	0.6
死者の言いたかったことを知るために、伝統的な呪術者、宗教者に頼み、その人を通して知ることがある	SHS1 <sub>1</sub>	1.4	0.83	1.3	0.8	0.74
死者、祖先の考えを知るために、伝統的なシャーマン(呪術者)に死者、祖先の考えを言葉にってもらうことがある	SHS1 <sub>2</sub>	1.3	0.73	1.2	0.7	0.82
尺度値	-	-	-	5.4	2.9	-

表15 委任シャーマニズム尺度

「シャーマニズム3」の尺度は、空想の中で上昇したり、いいアイデアが浮かんだりといった内

的な項目である。超常的な能力をシャーマンに任せるだけでなく、自分にもその素質があるという

空想シャーマニズム 尺度ラベル:SHS	第1回目調査			第2回目調査		
	n=123 α=0.63			n=135 α=0.65		
	平均	SD	尺度値との相関	平均	SD	尺度値との相関
空想の中で、自分の心が体を離れて霊の上や他の土地に行ってみることがある	SHS1	1.9	1.2	1.7	1.1	3
お墓、聖地や仏壇、拝所の前で自分の考えをまとめると、神や死者の助けを得て、いい考えが浮かぶことがある	SHS9	2.2	1.1	2	1.1	0.58
神や死者に対して自分の悩みを打ち明け、何かのメッセージをもらうことがある	SHS10	2	1.2	1.8	1.1	0.52
尺度値	-	-	-	5.5	2.5	-

表16 空想シャーマニズム尺度

神尺度 尺度ラベル:GS	第1回目調査		第2回目調査		
	n=119		n=130 $\alpha=0.92$		
	平均	SD	平均	SD	尺度値との相関
私は神の存在を信じる	GS1	3 1.3	3.1	1.4	0.78
苦しいことがあった時や試練の時に、心の中で神に助けを求めることがある	GS2	3.4 1.5	3.3	1.4	0.75
私は、唯一の絶対神に祈る	GS3	1.7 1.1	2.2	1.2	0.68
自分が成功したときは、神が自分を評価して成功させてくれたと思う	GS5	2.3 1.3	2.4	1.3	0.62
神は、自分に対してつらい試練を与えることもある	GS6	2.9 1.3	2.9	1.4	0.72
晴れてほしいときに、大雨が降り出すと、神の私への厳しい意志を感じる	GS7	1.7 1	1.6	0.9	0.67
人生の岐路にいるとき、神に問いかけ、何らかの答えをもらえたような気がした	GS8	- -	2	1.2	0.72
おみくじなどで、神の考えの示唆を得たと思う	GS9	- -	2	1.1	0.63
「神様」、「主よ」、など、神の名を口に出したり、心で言ったりする	GS10	- -	2.1	1.3	0.7
神に祈る時間を決め、なるべく毎日何回も祈る	GS11	- -	1.5	1	0.58
私は、神によって生かされていると思う	GS12	- -	2.1	1.3	0.7
神が人のからだに降りてきて、意識状態が変わることがある	GS13	- -	1.8	1.1	0.53
神社や聖なる樹林(うたき)に神が降臨してくる	GS14	- -	2.1	1.2	0.62
	尺度値	- -	29.2	11.6	-
(唯一神に祈らない方に:次の文章はどう思われますか)			n=105		
いろいろな神のかたちがあるが、それらの基礎となる一つの名のない神の存在がある	GS4	- -	2.6	1.4	-

表 17 神尺度

考えであり、瞑想にも近いと思われる。なお、第1回目調査は、若干言い回しが違うので、直接の比較はできない。中村(2002b)の空想対話尺度を参考とした項目である。これを、「空想シャーマニズム」と名付けた。

## 10 神尺度 GS:14項目

神への信仰、神との相互作用、神への帰依などを聞く質問を集めた。「あてはまらない」～「あてはまる」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「あてはまらない」が1点～「あてはまる」が5点とした。

相関行列を固有値分解したところ、1因子構造が適切と考えられたため、これを尺度とした。GS4は、唯一神に祈らない人だけを対象に回答を求めたので、欄外に記した。

この尺度も、高い信頼性係数を示し、一貫した項目と言える。GS11の毎日何回も祈るという項目は、インドネシアのバリヒンドゥーの人を取材して入れることとした。イスラム教徒以外でも、このような習慣を持つ人は多い。しかし、第2回目調査のデータでは、ごく少数である。

GS1の「神の存在を信じる」、GS2の「苦しいときに神に助けを求めた」という項目は、平均が5件法で3点を超えており、半数以上の人が神を信じているといえよう。唯一神を信じる人は、5件法で、4(ややあてはまる)、5(あてはまる)の人が、あわせて17.5%であった。

唯一神に祈らない人に限って聴いた、GS4「い

ろいろな神のかたちがあるが、それらの基礎となる一つの名のない神の存在がある」に対して、5件法で、4(ややあてはまる)、5(あてはまる)の人が、あわせて32.4%であった。つまり、一神教を信じていないひとも、唯一神に祈ることはあり、さらに唯一神に祈ることがない人でも、その3割以上は、神々の基礎に一つの名のない神を想定している。この「神々の基礎に一つの名のない神」の項目は、多神教文化でありながら長年イスラム文化と接している、インド、インドネシア・バリ島地区では、かなりの高い値になると予想される。あるいは、多神教そのものの中に、これらの思想が自生して来るという中沢(2003)の考え方も参考になろう。

GS5の「自分が成功したときは、神が自分を評価して成功させてくれたと思う」という、神との相互作用に関する項目も、5件法で、4(ややあてはまる)、5(あてはまる)の人が、あわせて25.8%であり、GS12のような、「神への帰依」を聴いた項目でも、5件法で、4(ややあてはまる)、5(あてはまる)の人が、あわせて17.4%であった。

## V その他の尺度

### 11 終末論尺度 ES:9項目

キリスト教社会、イスラム教社会で広汎に信仰されている終末論は、普遍的に存在するのだろうか。これらは伝播していると考えるのがよいの

か。これらを表す尺度を作成した。第1回目調査では、終末論の救済的側面が抜けていたので、これを補った。

「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5点とした。

終末論尺度 尺度値ラベル:ES	第1回目調査 n=120		第2回目調査 n=132 α=0.87		尺度値との相関
	平均	SD	平均	SD	
この世界は近いうちに終わりの日を迎える	ES1	2.3 1.3	2.3 1.2	0.67	
地震や災害などが多く起こると、この世の終末の前兆だ	ES2	3.2 1.3	2.2 1.1	0.71	
この世の中の終わりがきても、信仰によって救われて、永遠の命を与えられる人々がいる	ES3	1.6 1	1.8 1	0.34	
この世の中の終わりを決定する、絶対者が存在する	ES4	1.7 1.1	1.6 0.9	0.56	
この世の中の終わりが、近いうちにやってくる	ES5	変更 -	2.1 1.1	0.71	
いくつかの予言において、この世の終わりが来るとされているの信じる	ES6	想定外 -	1.9 1	0.69	
この世の終わりが近い、という予言を聞くと怖い	ES7	想定外 -	2.4 1.4	0.33	
終末の日は、この世の矛盾が解決される救済の日である	ES8	想定外 -	1.6 0.9	0.66	
終末の日には、救済者が来臨する	ES9	想定外 -	1.6 0.9	0.62	
尺度値	-	-	17.5 6.7	-	

表18 終末論尺度

## 12 シンクレティズム態度尺度 (尺度ラベル: SCT, 5項目)

ここでは、異質な背景を持つ考え方の混合についての項目を並べ、「そう思わない」～「そう思う」の5件法で回答してもらった。得点化する場合は、「そう思わない」が1点～「そう思う」が5

点とした。シンクレティズムの肯定、エキュメニズム(他の宗派への寛大)の肯定を測る尺度として、ある程度高い信頼性係数を得た。これは、インドネシアのジャワ地区では、低い値になることを予想する。

シンクレティズム態度尺度 尺度ラベル:SCTS	第1回目調査 n=132		第2回目調査 n=134 α=0.82		尺度値との相関
	平均	SD	平均	SD	
元々、神は共通であり、所属する宗派以外の神社、寺、教会に行き祈ってもかまわない	SCTS1	3.3 1.3	3.5 1.3	0.7	
人々が自分の宗教以外の宗派の寺、教会に行き祈ることで、宗教対立は減るだろう	SCTS2	2.7 1.2	2.7 1.2	0.49	
異なった宗教同士で取り入れたり融合したりすることは、かまわない	SCTS3	- -	3.6 1.2	0.71	
中央の宗教の教義に合わせるのではなく、伝統文化のやり方を残すことに賛成する	SCTS4	- -	3.6 1	0.64	
結婚式をキリスト教式に挙げた人が、子どものために七五三で神社に行くのは自然だ	SCTS5	- -	3.3 1.3	0.58	
尺度値	-	-	16.7 4.6	-	

表19 シンクレティズム尺度

## 13 西沢のスピリチュアリティ尺度 (尺度ラベル: SPS, 5項目)

これは、西沢(1998)の尺度である。それぞ

れ、ヌミノーズ、荘厳な自然、荘厳な聖域、マナ、アニミズムをはかったものである。日本人は全体的に高い値を示しているといえよう。

スピリチュアリティ尺度 尺度ラベル:SPS	第2回目調査 n=135 α=0.75		
	平均	SD	尺度値との相関
理屈抜きで驚きの感情を引き起こす、神秘的な力を感じることがある	SPS1	2.9 1.2	0.55
日の出・日没・星空・野の花などの美しい自然にふれ、打たれたような感動を生じたことがある	SPS2	4 0.9	0.54
目に見えない神秘的な力が空・海・山・川・草・木のなかに存在している	SPS3	3.8 1.1	0.67
神社・お寺・教会のたたずまいに触れて、敬虔な感動を生じたことがある	SPS4	3.6 1.1	0.39
森羅万象(全ての自然)の中に、命が宿っている	SPS5	4.2 0.9	0.48
尺度値	18.5	3.7	-

表20 スピリチュアリティ尺度

Wongの死への態度尺度10項目短縮版	尺度ラベル:DARP		オリジナル	第2回目調査 n=135		
				平均	SD	下位尺度内相関
死んだあとには、新しい輝かしい生が約束されている	接近受容1	DAPR1	Wong16	2.5	1.1	—
死んだあとには、神との出会いがあり、永遠の恵みがもたらされる	接近受容2	DAPR2	Wong15	2.2	1.1	—
	下位尺度合計			4.7	2	0.63
死んだあと何が起こるか分からないので、私は心配である	死への恐怖不安1	DAPR3	Wong32	2.5	1.3	—
私は死を非常に恐れている	死への恐怖不安2	DAPR4	Wong18	2.9	1.3	—
	下位尺度合計			5.4	2.2	0.53
私は、死について考えることを全く避けている	死からの回避1	DAPR5	Wong19	2.3	1.1	—
私は、いつも死について考えないようにしている	死からの回避2	DAPR6	Wong12	2.3	1.1	—
	下位尺度合計			3.6	2.1	0.74
私は、死をこの人生の重荷からの解放と思っている	死は解放1	DAPR7	Wong29	1.9	1	—
私は、死とはこの世の苦しみから解放されることだと思っている	死は解放2	DAPR8	Wong23	1.8	0.9	—
	下位尺度合計			3.7	1.9	0.89
死は、単に人生のプロセスの一部にすぎない	死の自然受容1	DAPR9	Wong24	3.2	1.3	—
死は、人生の自然な側面の一つである	死の自然受容2	DAPR10	Wong14	4.1	1	—
	下位尺度合計			7.4	2	0.51

表 21 死への態度尺度

## VI 死への態度尺度

### 14 Wongの死への態度尺度 短縮版 DAPR: 10項目

Wongらの用いた、死への態度尺度を用いることとした。平井ら(2000)は、これらを日本人用に改訂したが、筆者らの研究上は、世界比較が可能なWongの尺度の方が望ましいと判断した。また、平井らの作成した尺度の第一因子は、まさに日本的シンクレティズムを含み込んでいる。これらを分けて分析するのが筆者らの趣旨であるので、Wongらの尺度を用いることとした。ちなみに、筆者らが訳して調査を行ったあと、隈部ら(2003)の研究を見ることとなったが、若干翻訳が異なることを付記しておきたい。筆者らの翻訳の方が、日本人には自然に受け止められると考える。

死への態度尺度は、5つの下位尺度に分かれている。「接近受容」「死からの回避」「死は解放」のそれぞれは、比較的低い値を示し、「死への恐怖不安」「死の自然受容」は、高い値を示した。それぞれは、2項目で短縮版としたが、下位尺度内の項目相関は高く、十分な信頼性を持つといえよう。

## VII 死生観、神霊観尺度の男女差、年齢差および既成尺度との関連

それぞれの尺度の男女差、年齢差を見てゆ

く。表22に示したように、全体的に女性の方が各尺度が高い値といえる。

表23は、年齢別の尺度値である。全体的に20代の方が高い値を示している。データ数が少ないので明確とはいえないが、若い人の方が靈魂を信じ、輪廻を信じている。一方、委任シャーマニズム、終末論、死からの回避、死は解放という考え方は、上の年代の方が高い。

作成した尺度を、死生観という視点から統合するために、WongのDAPR下位尺度5つとの関連を見ることとする。

ここからは、興味深い関連が見えてくる。死への態度に、様々な心理的な状態、Folk Beliefが関係するという事実である。「魂の消滅還元観」と「委任シャーマニズム」以外は、すべて「接近受容DAPR」に相関を示した。

つまり、肯定的な、神との出会いや明るい来世観を持つ人(接近受容DAPR)は、「神の決定観」も高いし、「輪廻」も高いし、「変容シャーマニズム」も高いのである。

また、死への恐怖不安を持つ人(恐怖不安DAPR)は、いくつかの死生観が高い。例を挙げると、「神の決定観」が高く、「靈魂」尺度が高く、「祖先対話」、「変容シャーマニズム」、「空想シャーマニズム」、「終末論」尺度などが高い。

死からの回避をしているかどうか(回避DAPR)は、これらの尺度とはあまり関連がない。死は解放であると思っている人(解放DAPR)は、なぜか「お盆」尺度、「委任シャーマニズム」、「因果尺度」が高い。死の自然受容を

尺度	尺度略号	男性		女性	
		M	SD	M	SD
魂の自律観	SelfDtrm	6.8	3.2	7.5	2.5
神の決定観	GodDtrm	5.8	2.8	7.7	3
魂の消滅還元観	ExtinctReduct	5.3	2.4	5.5	2
お盆尺度	OBS	7.7	3.3	9.5	3.1
靈魂尺度	DSS	32.2	12	40.2	8.9
祖先対話	ADS	12.1	4.3	14.6	4
輪廻尺度	RICN	28.3	12.6	29.6	9.7
因果尺度	CAUS	4.8	2.6	5.6	2.3
変容シャーマニズム	TransformSHS	12.8	6.4	16	5.1
委任シャーマニズム	EntrustSHS	5.4	3.1	5.5	2.7
空想シャーマニズム	FantasySHS	5	2.4	5.9	2.5
神尺度	GS	26	12.1	31.5	9.6
終末論尺度	ES	14.8	5.8	19.6	6.6
接近受容	AcceptDAPR	4.5	2	4.8	2
死への恐怖不安	FearDAPR	4.9	2.1	5.8	2.3
死からの回避	AvoidanceDAPR	4.2	2.1	4.6	2.1
死は解放	EscapeDAPR	3.5	1.9	3.8	2
死の自然受容	NeutralDAPR	7.7	2.4	7.1	1.8

表 22 男女差

しているかどうか（自然DAPR）は、これらの尺度と強い相関はない。強いて言えば、「神」を信じない傾向にあるし、「終末論」も信じていない。死を自然に受け止めることは、死に対する態度の中でも肯定的なものであると思われるが、これが日本では神の信仰とは一致していないのはおもしろい。

尺度	尺度略号	20代	30代	40代
		n=6	n=68	n=61
魂の自律観	SelfDtrm	8.2	7.4	6.9
神の決定観	GodDtrm	7.8	6.9	6.8
魂の消滅還元観	ExtinctReduct	4.2	5.1	5.8
お盆尺度	OBS	9.7	9	8.4
靈魂尺度	DSS	41.7	39.3	33.3
祖先対話	ADS	16.2	13.7	13.2
輪廻尺度	RICN	31.8	29.8	27.4
因果尺度	CAUS	5.5	5.4	5.1
変容シャーマニズム	TransformSHS	17	15.3	13.4
委任シャーマニズム	EntrustSHS	4.8	5.5	5.4
空想シャーマニズム	FantasySHS	6.5	5.4	5.6
神尺度	GS	34.5	29.3	27.9
終末論尺度	ES	15.2	18	17.1
接近受容	AcceptDAPR	4.3	4.8	4.6
死への恐怖不安	FearDAPR	6.5	5.4	5.2
死からの回避	AvoidanceDAPR	3.8	4.7	4.5
死は解放	EscapeDAPR	2.8	3.8	3.6
死の自然受容	NeutralDAPR	7.8	7.3	7.5

表 23 年齢差

## 考察

日本における一般の人々の死生観、来世観の統計学的研究は、これまでも見られたが、日本においては様々な考え方がまじりあい、一体となっている傾向があった。これまで曖昧にあつかわれ、ややもすると一つの因子にまとめられがちであった死生観、神霊観の項目を、国際比較に耐えうる

尺度名/尺度略号	接近受容	死への恐怖不安	死からの回避	死は解放	死の自然受容	
	AcceptDARP	FearDARP	AvoidanceDARP	EscapeDARP	NeutralDARP	
魂の自律観	SelfDtrm	0.35**	0.15	0.01	0.03	-0.15
神の決定観	GodDtrm	0.55**	0.33**	0.15	0.30**	-0.18*
魂の消滅還元観	ExtinctReduct	-0.37*	0.07	0.14	0.03	0.05
お盆尺度	OBS	0.17*	0.09	0.07	0.25*	0.00
靈魂尺度	DSS	0.20*	0.38**	0.01	0.15	-0.13
祖先対話	ADS	0.18*	0.27*	0.04	0.18*	-0.14
輪廻尺度	RICN	0.48*	0.14	-0.18*	0.21*	-0.04
因果尺度	CAUS	0.31**	0.13	-0.05	0.20*	-0.04
変容シャーマニズム	TransformSHS	0.44**	0.29**	0.01	0.17	-0.08
委任シャーマニズム	EntrustSHS	0.11	-0.04	-0.14	0.29**	0.06
空想シャーマニズム	FantasySHS	0.44**	0.29**	0.01	0.17	-0.08
神尺度	GS	0.42**	0.32**	-0.02	0.32**	-0.23*
終末論尺度	ES	0.35**	0.24**	0.12	0.16	-0.21*
シンクレティズム	SCTS	-0.08	0.20*	0.12	0.02	-0.02
スピリチュアリティ	SPS	0.51**	0.11	-0.05	0.20*	-0.11

表 24 既成尺度との関連

ように複数の尺度として分離する試みを行った。本論では、12の新しい死生観、神霊観の尺度を作成し、その信頼性を確認した。さらに、既成の尺度との関連を見た。

日本における死生観、来世観、神霊観は、様々な経路の伝達の影響を受けて成り立っていると思われる。そして、それ以前の考え方というのも、幅広く残っているとも考えられる。たとえば、表8でみたように、多くの日本人が死者の魂に直接祈りかけ、一神教社会のように神を仲介していない。ここには、祖先が神になるという伝統的な思考が、かいま見られる。

それぞれの尺度で見てきたように、日本人の中には、輪廻、唯一神、終末論など様々な考え方が存在している。これらは伝達されたと考えられる一方で、心の中に自生している、あるいはもともと存在しているとも考えられる。これらの死生観の仕組みを明らかにすることは、重要であると考えられる。

日本人においても、これらの死生観は少しずつ変化していると思われる。世代別の値を検討した表23では、若い世代ほど霊魂を信じ、輪廻を信じている傾向があることが示されたが、しばしばオウム世代前後の変化が指摘される中、今後ともこれらを研究していくことは重要であろう。また、アニメやゲームの世界におけるこれらの現われも、興味深い現象と思われる。渡辺(1997)のように、輪廻が新しく展開する可能性もあるが、本研究ではそこまでは扱っていない。

ところで、はじめの部分で、革命後の中国での無宗教化について述べた。ところが、興味深い現象を最近観察した。中国人留学生二人が、ちょうど同じ頃、第一筆者に次のようなことを報告した。一人は、日本人の家にホームステイしたのだが、仏壇のある部屋に寝かされたため、怖くて一睡も出来なかったというのである。仏壇のところに霊がいるという感覚を彼女は持っていたのである。もう一人は、日本ではお墓が町の中にあるので、怖くてしょうがないと言ってきた。彼女の場合は、アパートの隣にお墓があるそうである。中国では、町の外にあるというのである。改革解放後の中国で、どのような変化が起こっているのかも興味深い。日本社会を外から見ると、新たなことが分かる(つまり、さほど霊を恐れていない、身近においておく)という意味でも興味深かった。「霊が怖い」という感覚が世界に普遍的にあるとしても、それを眠れないほど怖いと感じるのは、仏壇、お墓という異文化体験によって一定

のバランスが崩されて、活性化されているためと思われる。

さて、我々の今後の研究では、二つの方向で課題であろう。まず、これらの死生観、神霊観のFolk Beliefを、日本における他地域(沖縄など)、アジア各地(インド、インドネシア、中国など)、世界各地(欧米など)で調査し、比較することである。さらには、これらのBeliefが、死を巡っての態度、死別うつ尺度などといかに関わってゆくのかということ調べるのである。我々は、大事な他者を死によって失ったときのうつ状態に関心を持っている。これらの激しさは、死生観、神霊観と関わりがあるのであろうか。亡くなった夫と仏壇の前で会話をしている妻は、その対話の行為によって激しいうつ状態から守られているということがいえるのであろうか。死別うつ尺度などと並んで、幸福感などの心理的状态との関連を見ることも課題となろう。このように、死生観、神霊観の持ち方が、うつ状態や、幸福感といった心理的状态を変えることがあるのか。そして、文化によって、これらの連関が異なるかどうかを調べるのが重要である。たとえば、今後の統計的研究で、日本では霊魂尺度が高い人が死への恐怖不安を持つということが、もし明らかになったとしても、他の文化では全く違うかも知れないのである。そして、我々の関心の一つである死別うつ状態を、これらの死生観、神霊観の尺度で文化別に説明できるかも知れない。つまり、来世をどのように考え、感じているかというBeliefのあり方が、文化によっては大事な人を失ったときのうつ状態を防ぐ可能性があるのではないか。このような問題意識を持って、これらの尺度を使った沖縄、バリ島、ジャワ島、カルカッタ地区調査を順に実施してゆきたい。

#### 参考文献

- 深井智朗 1999 アポロゲティークと終末論  
北樹出版
- 日高亜希 2002 大学生の癒しへの志向性について 福岡教育大学卒業論文
- 平井 啓, 坂口幸弘, 安部幸志, 森川優子, 柏木哲夫 2000 死生観に関する研究. 死の臨床 23(1): 71-76
- 金児曉嗣 1997 日本人の宗教性 オカゲとタタリの社会心理学 新曜社
- 隈部智更 2003 DAP-R日本語版の内容的妥当性 死への態度と信仰の関係 心理臨床学研究 Vol. 20, No. 6 601-607

- 中沢新一 2003 神の発明 講談社
- 中村俊哉, 中村幸 2001 日本及びアジア系の大学生の宗教意識と多文化混合 (1) 福岡教育大学紀要 50-4 219-225
- 中村俊哉 2002a アジアの死生観 (火葬, 対話, 輪廻) ホスピスケアと在宅ケア 25 VOL. 10, No2 pp149 日本ホスピス・在宅ケア研究会第10回九州大会
- 中村俊哉 2003 解離と分割についての覚書 日常的な解離尺度, 空想対話尺度, 日常的な分割投影尺度の作成 福岡教育大学紀要 52-4 213-226
- 中村俊哉 印刷中 南インドの死生観 インタビュー法から 福岡教育大学紀要 53-4
- 西沢悟 1998 宗教心理と精神健康～現代大学生について 北海学園大学学園論集 96,97号 1-65
- 佐々木宏幹 1983 憑霊とシャーマン 宗教人類学ノート 東京大学出版
- 杉山幸子 2001 日本における宗教心理学の歴史と現状 心理学評論 44, 3, 307-327
- 渡辺恒夫 1996 輪廻転生を考える 死生学のかなたへ 講談社現代新書
- Wong, P. T., Reker, G. T., Gesser, G. 1997 Death Attitude Profile-Revised: A Multidimensional Measure of Attitudes toward Death. In Neimer ed. Death Anxiety Handbook, Taylor&Francis, Ch. 6.

#### 謝辞

本稿作成にあたり, ご協力いただいた, 福岡教育大学教授 入江建次先生, 同大学学生, 土江香織さん, 豊倉礼子さん, 稲田聖子さん, 古賀由衣さん, 近藤永二君, 横山貴史君, 渡邊資子さん, 同留学生の劉曉揚君, 東北大学大学院の佐藤洋之君に心よりお礼申し上げます。なお, 本研究は, 日本学術振興会科学研究費(課題番号13571007)の補助を受けた。